プラジン(Puradin)により熱発を来した赤痢菌保菌者の1例

関西医科大学第三内科 (指導 平川公行教授)

川那部 喜美子 . 簡 雪 桜 . 山本 瑋 対 美

緒 言

Nitrofuran の新誘導体の1つであるプラジン (Puradin 以下Pとす)(表1)は1944年, Dodd¹⁾と Stillmann とにより広い抗菌作用を有する薬剤として紹介された。数年前より本邦では細菌性腸疾患の新しい化学療法剤として赤痢菌に強い抗菌力を有し, またPに耐性を示す赤痢菌は殆んどない或いは極くわずか(山上1~2/ccr)²⁾といわれ, 殊に最近問題になつてゐる耐性赤痢, 病後再排菌や保菌者に対する優れた効果が報告されている。私達も今回, Pの1使用例を経験したので報告する。

第1表

構 造 式

FURAZOLIDONE

3-(5-Nitro-2-furfurylidene
amino)-2-oxazolidinone

症例 17才, 独身女子, 百貨店食堂給仕。

主訴 赤痢菌保菌者。

家族歴 母が肺結核で入院治療した他特記すべきことはない。

既往歴 顔面神経痛(昭和35年9月~同年11月迄)に罹患した他に著患を知らず。昭和34年の夏には仕事の性質上会社より「アクリノール」を服用するようにいわれ1日2錠宛(1錠25mg)3ヶ月間続けた。昭和35年夏には1日1錠宛服用したが軟便を来したので10日間で中止した。

現病歴 昭和35年11月中旬に職場の定期検便で赤痢菌保菌者と診断され, 11月25日本院隔離病舎に収容された。入院時自覚症状はなかった。

現症 体格, 栄養中等度, 体温36.6°C, 脈搏80, 整, 緊張良, 舌, 咽頭に異常なく, 胸部聴診上, 心は心尖部で第一音不純, 肺はラ音を聴取せず, 腹部は抵抗及び圧

痛を認めず, 四肢異常なく, 血圧は最高120 mmHg 最低60 mmHg。

検査成績 血液所見一血色素量60% (「ザーリー」による), 赤血球数360万, 白血球数8400, 色素係数0.83, 百分率好塩基球0, 好酸球0, 好中球桿状核17, 好中球分節核65, リンパ球16, 単球2, 肝機能 血清総蛋白量8.0 g/dl, モオイレングラハト氏黄疸指数4, ルゴール反応(+), グロス氏反応(1.9 cc), コバルト反応(R₄), 赤沈中等値13.5, ワ氏反応陰性。尿一異常なく, 便一消化良, 粘液血液及び膿汁なく, 虫卵陰性, 潜血反応「ベンチジン」法弱陽性。便培養は入院時赤痢菌陰性。

から心悸亢進、発熱、顔面紅潮、下肢脱力感、悪感、倦怠感および咳嗽を来した。その際脈搏120、整、緊張良、舌、咽頭に異常なく、胸部聴診上呼吸音弱、腹部および下肢には著変を認めなかった。この時はPと高熱との関係に気付かなかつた。12月23日再び四肢脱力感咳嗽および高熱を来した、というのは患者はPを服用したり服用しなかつたりした。たまたま服用した時に第1図にみるような高熱を来したのである。高熱時の血液所見は血色素量75%（「ザーリー」による）、赤血球数354万、白血球数10400、色素係数1.05、百分率好塩基球1、好酸球0、好中球桿状核29、好中球分節核67、リンパ球2、単球1。CMを投与しても菌が陰性化しないので、TM 1日1g 5日間（28/XII～1/I）に変薬した。TM投与中再び菌陽性、CM、TM、SM耐性、ペニシリン（PC）、エリスロマイシン（以下EMとす）、サルファゾール（ST）感性を認めたので再びPを使つた。この時前2回の悪心嘔吐、下肢脱力感、心悸亢進、顔面紅潮および高熱とPと関係があるのではなかろうかと気付いた。1月2日P 1日400 mg 4回分服法で投与した所、服用後、3～4時間で悪心悪感および高熱を来したので中止し、EM 1日1gに変薬して赤痢菌陰性になった。一方、その後、Pによる副作用の有無を確認するために1月11日午後7時および9時にP、1錠100 mg 宛2錠を投与させたところ、1時間半で悪寒と共に発熱し、4時間半後、高熱、悪心および嘔吐を来し、6時間後には解熱し自覚症状も消失した。1月23日、便培養4回赤痢菌陰性で退院した。退院時血液所見一血色素量92%（「ザーリー」による）、赤血球数405万、白血球数8000、色素係数1.12、百分率好塩基球1、好酸球1、好中球桿状核7、好中球分節核45、リンパ球43、単球3。

考 按

Pの用法、用量として成人では100 mg 宛毎6時の投与により翌日より解熱、便性状好転、2～7日で排菌停止し、一般に治療量では副作用は殆んど認められないが時には第2表²⁾～¹⁰⁾および第3表のごとき悪心、嘔吐、食欲減退、腹痛、頭痛、腹部膨満感、発疹および胃痛などの副作用がみられ報告症例272例中18例即ち6.6%に現われており、これらの症状は投与量を減ずるか投与を中止すると消失したと報告されている。本例はP投与により既に知られた悪心、嘔吐および食欲不振の他に心悸亢進、顔面紅潮および高熱を来した1例であるが、私達の調べた今までの文献では高熱の副作用の記載がないのでここに報告した。近年、耐性菌感染が問題になっているが、抗生物質使用に先立ち安価なPを使用する時にかか

第2表 副作用

悪	心	11
嘔	吐	6
食	欲 減 退	7
腹	痛	3
頭	痛	2
腹	部膨満感	2
発	疹	2
胃	痛	1

第3表 副作用と投与量

報 告 者	例 数	副作用	量 (mg/day)
山 上	20	0	600～ 800
藤 井	64	0	50～ 300
落 合	22	0	400
秋 葉	10	1	500
De Leon	30	4	10 mg/kg
小 張	34	1	7.5 mg/kg
内 藤	29	2	400～ 800
大 久 保	8	3	400～1200
安 原	1		200
江 見	4	1	400
龜 田	15	4	400
山 下	21	1	400～ 800
八 木	14	1	400～ 800
計	272	18	6.6%

る副作用特に高熱の出ることがあることを念頭におくべきではないかと思ひ、P耐性などの諸検査はしなかつたが、発熱の副作用に就いて報告したのである。

結 論

1) 健康クロロマイセン、ストレプトマイシンおよびテラマイシンの耐性赤痢菌保菌者に Puradin を用いて悪寒悪心、嘔吐、心悸亢進、顔面紅潮および下肢脱力感と共に高熱を来した17才女子の1例である。

2) P投与中止により上記の副作用は消失した。

平川公行教授のご校閲の労に深謝する。

文 献

- 1) Hobson, D.: Brit. J. Exp. path 37: 20, 1956.
- 2) 山上 茂他: 大阪府医師会会報, 26: (1), 1960.
- 3) 武田薬品工業株式会社: プラジン臨牀文献集, 1960.
- 4) 武田薬品工業株式会社: 最近の赤痢とその治療剤, 1960.

- 5) 山之内製薬株式会社 : メダロン錠文献集, 1960.
- 6) 藤井良知他 : 治療, 41 : (9), 1025, 1959.
- 7) 小張一峯他 : 実験治療, 329 : 5, 1959.
- 8) 江見 勇他 : 実験治療, 336 : 16, 1960.
- 9) 秋葉 享他 : 実験治療, 336 : 21, 1960.
- 10) 大久保晃他 : 実験治療, 336 : 18, 1960.
- 11) Rogers, G. S., Belloff, G. B., et al : Antibiotics and chemotherapy 6 : 231, 1956.

A Case of Dysenterycarrier had Fever by Taking Puradin

Kimiko Kawanabe, Setuo Kan and Itumi Yamamoto

Department of IIIrd. Internal Medicine, Kansai Medical School

(Director : Prof. Kimiyuki Hirakawa, M. D.)

We experienced that a case of dysenterycarrier (17 years old, waitress) had chills, nausea, vomiting, palpitation, flush of face, weakness of legs with high fever by taking Puradin.

These symptoms disappeared after Puradin's discontinuation.